

今後の対策 ホットスポット(ヒ素)対策

目的：土壌汚染(ヒ素)の地下水への影響を抑制する

⇒ 高濃度ヒ素含有土壌(ホットスポット)に対処策を行う

2018年6月6日 第20回環境専門委員会 資料9.

今後の汚染拡大防止対策

バリア井戸により、敷地外への汚染拡大防止が図られた。



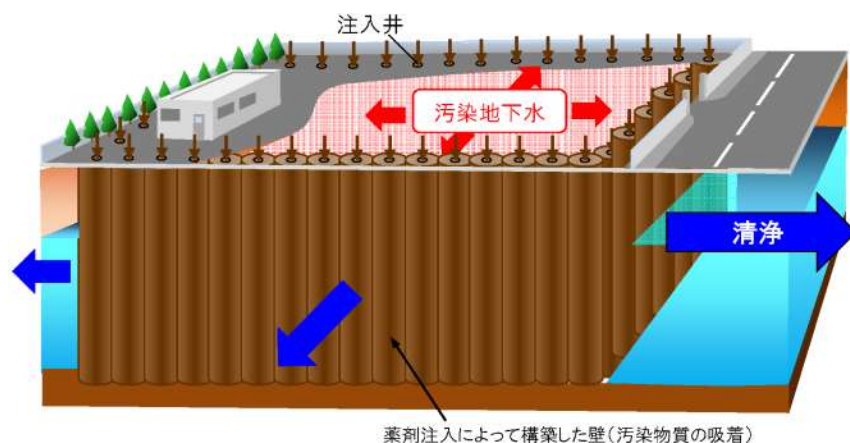
今後の対策は、敷地内の汚染濃度が高い箇所への対策(不溶化等)により、バリア井戸への負荷を低減させる。

対策が必要な案件

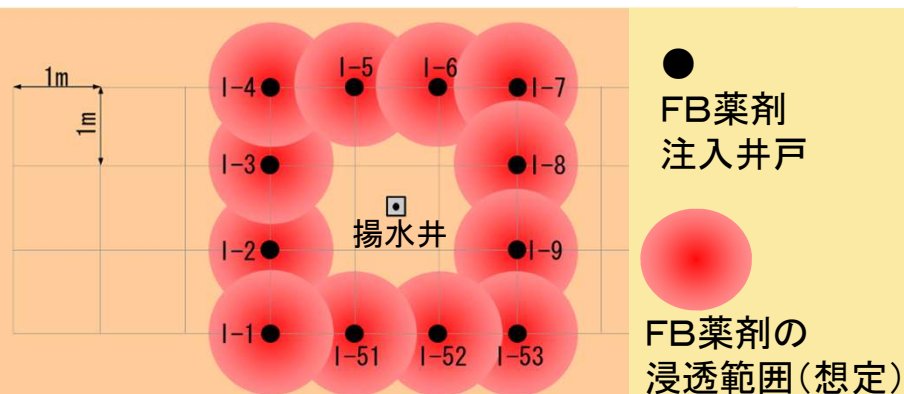
1. ホットスポット(電解工場、A工場 他)対策
汚染拡散防止壁工法

汚染拡散防止壁工法 イメージ図

FB: 酸化鉄系ヒ素吸着剤



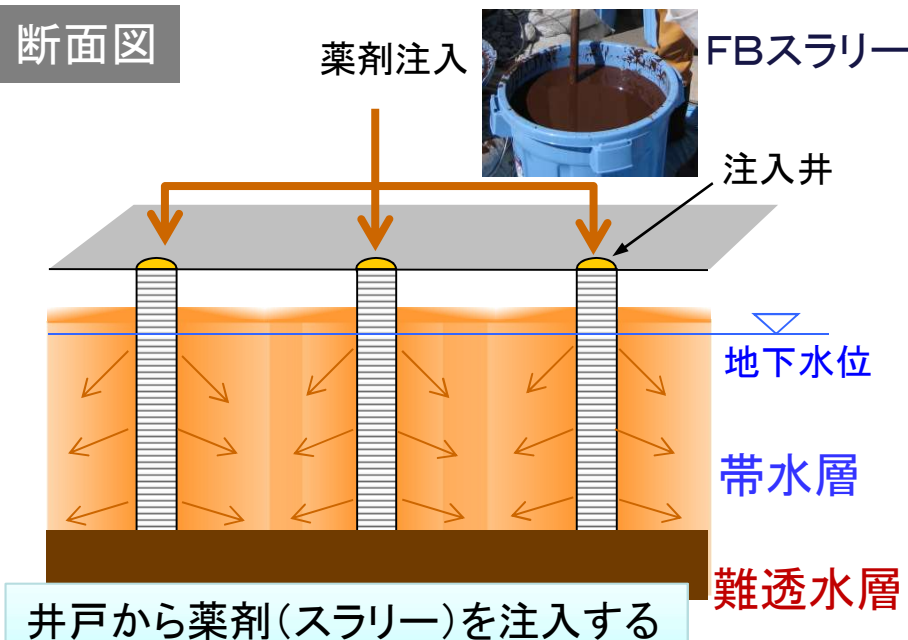
3m × 3mの規模で試験施工を実施済み
流出防止・低濃度化を確認（2012～2013年）



平面図



断面図

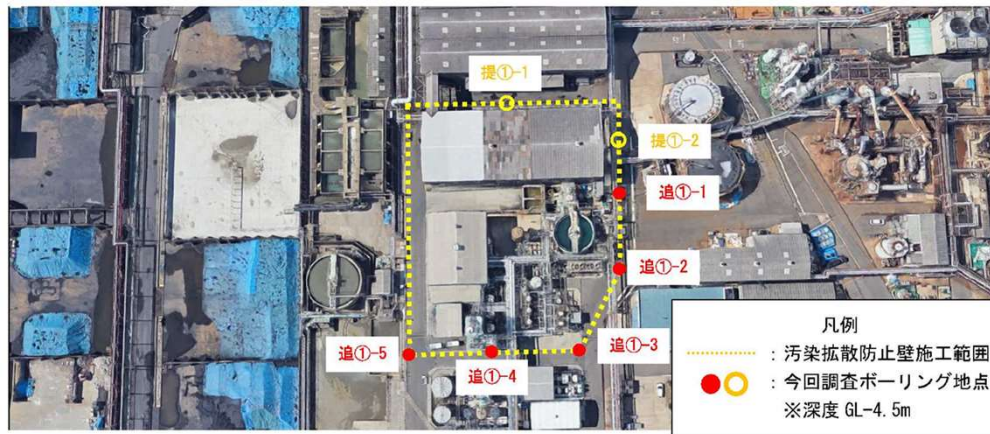
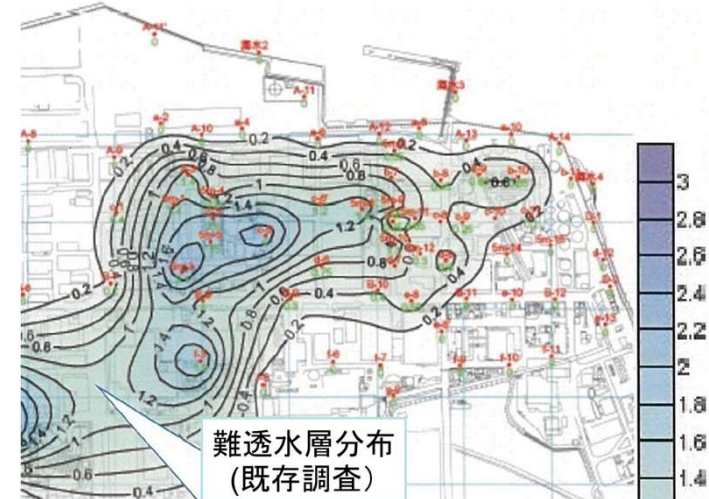
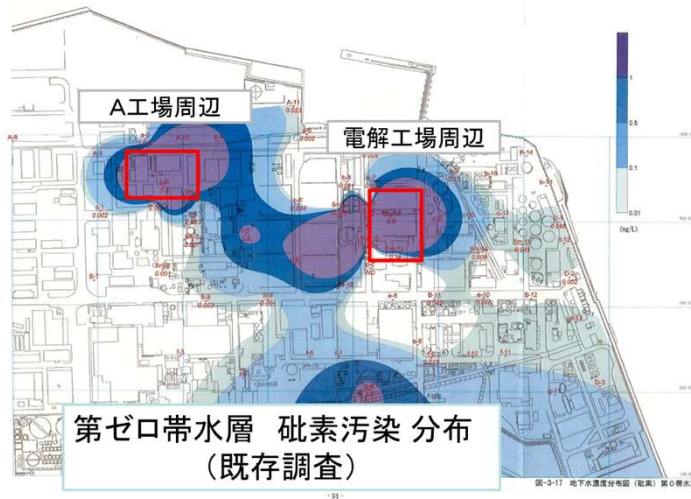


今後の対策実施予定（現在の案）

2020年2～3月
電解工場付近 **調査**

2020年度（予定）
電解工場付近 **本工事**

2021年度以降（予定）
A工場付近 **調査 本工事**



2019年度 事前調査（電解工場付近）

今後実施予定のFBスラリー（酸化鉄粒子）注入による汚染拡散防止壁構築工事に先立ち、薬剤注入範囲および拡散防止壁の適用性検証のために、対象範囲の地層状態（難透水層の連続性）および地下水汚染状況を確認することを目的とする。

- ・現地作業（約2週間）
ボーリング工
土壌試料採取
観測井戸設置
- ・外部作業
土壌、地下水分析
報告書まとめ

資料提供：(株)大林組

今後の対策 南東域VOCs土壤汚染対策

目的：土壤汚染(VOCs)の地下水への影響を抑制する

⇒ 高濃度VOCs含有土壤(ホットスポット)に対処策を行う

2018年6月6日 第20回環境専門委員会 資料9.

2018年度～ の計画

BS～南東域 土壤汚染対策

バイオレメディエーションに関する情報収集

対策のこれまでの検討経緯

- ・酸化鉄による還元分解 ⇒ 対象となるVOCsの分解が困難
- ・バイオレメディエーション ⇒ 汚染が高濃度であり適用困難



現在検討の対策手法

- ・酸化鉄 + バイオ栄養剤 ⇒ 酸化鉄の作用によるバイオ処理活性化

トリータビリティ試験

実施済み

試料: 現地土壌 + 地下水

薬剤: バイオ栄養剤 1g/L + 酸化鉄 25g/L

		初期	嫌気4週	好気4週	基準
ジクロロメタン	mg/L	4.5	0.1	<0.002	0.02
1,2-ジクロロエタン	mg/L	2.8	3.0	0.2	0.004
pH		6.4	7.0	7.3	-

現地パイロット試験

2020年実施予定

水に分散した薬剤
を注入井から注入

本施工

